

知識情報処理技術に関するシンポジウム 「リンクするデータ・リンクするサービス」

- 主 催：知識情報処理技術専門委員会
- 担当部署：インダストリ・システム部
- 参加者数：70名

概 要

Webの普及から十余年の間に電子化された大量のデータと多数のサービスが現われています。

また、SOAやWeb 2.0が話題に上ってから数年が経ち、複数の組織にわたるデータやサービスの相互連携も部分的には可能になりつつあります。しかしその展開はまだきわめて不十分であり、連携すべき多くのデータやサービスが分断されています。そのため、潜在的なニーズがビジネスの創造につながらず、意志決定が科学的根拠に欠けることが多いと考えられます。

例えば、医療と介護の間、消費者と生産者の間、異なる研究分野の間などでデータ同士がリンクすれば、知

識が循環しサービスが連携して新しい知識や価値が生まれるでしょう。米国や英国では、政府が持つデータを民間に公開して新しいビジネス等の価値を生み出す試みが始まっています。本シンポジウムでは、新たな展開を見せつつあるITの産業上のインパクトを含む社会的役割とその可能性について考えました。パネルディスカッションでは、データの連携・共有という世界的トレンドの中で、日本が真のIT革命を推進し、社会の活性化と国際競争力の向上を図るための戦略を議論しました。

プログラム

○開会挨拶

知識情報処理技術専門委員会 委員長 橋田浩一 氏（（独）産業技術総合研究所）

○「リンクするデータの現状と展望」

神崎正英 氏（ゼノン・リミテッド・パートナーズ 代表）

○「世界と日本におけるGov 2.0の現在」

岡本 真 氏（アカデミック・リソース・ガイド（株） 代表取締役／プロデューサー）

○「日本におけるLinked Dataの課題とその解決への試み」

武田英明 氏（国立情報学研究所 情報学プリンシプル研究系・教授／学術コンテンツサービス研究開発センター長）

○「DataWikiを実現するWedataの構築と運用」

江渡浩一郎 氏（（独）産業技術総合研究所 社会知能技術研究ラボ 研究員）

○パネルディスカッション「日本の戦略」

コーディネータ： 橋田浩一 氏（産業技術総合研究所）

ディスカッサント： 木下 聡 氏（東芝）

津田 宏 氏（富士通研究所）

パネリスト： 神崎正英 氏（ゼノン・リミテッド・パートナーズ）

岡本 真 氏（アカデミック・リソース・ガイド）

武田英明 氏（国立情報学研究所）

江渡浩一郎 氏（産業技術総合研究所）

○閉会挨拶

知識情報処理技術専門委員会 委員長 橋田浩一 氏（（独）産業技術総合研究所）



神崎様 ご講演



橋田委員長 挨拶



武田様 ご講演



江渡様 ご講演



パネルディスカッション

